

追跡ありゃあどうなった?

「星の里いせき」46区画契約

新築住宅が次々誕生

神石高原町井関に町が整備した住宅団地「星の里いせき」は、町有地4haと民有地3haを合わせて7haの高台に平成22年度に造成した定住型住宅団地です。

国道から進入する道路や、現地案内の建物を含めて総事業費は約6億5千万円でした。

販売は、宅地建物取引の資格を持つ町内業者に委託して販売を行っており、平成24年12月現在で76区画の内46区画が契約、予約をいただいております。

契約をいただいた方の半分以上は、町外からの転入者であり、Uターン、イターン者を含めて現在20世帯の方が入居されています。

井関・大矢自治振興会では、新しく「星の里」班をつくって地域の人たちと交流できるような仕組みづくりに取り組んでおられます。

この定住団地は、おいしい空気を、きれいな星、素晴らしい自然と合わせて、CATVも完備しており、福山市や、府中市への通勤も比較的便利であることが好評の要因だと思います。

また、販売価格も80万円台からと



「星の里いせき」

格安の上に、面積も300坪以上ある区画も多くあり、ちょっとした家庭菜園もすることができ、町有林無償提供、新築住宅補助金、固定資産税5年間半額助成、子育て世代は土地代1割引など多くの特典も魅力的です。現在も、続々と新しい住居が建設中で、どんどん人口が増えていくということは大変うれしいことです。

クイズの解答とともに寄せられた

みんなの声

長く生きて議会だよりなんてむずかしい事はわかんと思っていただけ、よく見れば議員さんがそれぞれの役に努力しておられる事がわかりました。神石高原町がより良くなりますよう、お願い致します。(88歳・女性)

神石高原町の少子高齢化がどんどん進んで来ています。私たち高齢者が安心して生活できる神石高原町づくりに議員の皆さんの活躍を期待しています。よろしくお願致します。(79歳・男性)

神石高原町民になって3年目、いつも楽しく「みんなの町議会」広報誌、拝見しています。町の事、議会の事、人々の暮らしなど、とてもよくわかります。これほどの広報ができることって他にはないのでは?...頑張ってください。(40歳・女性)

今、毎週神石に帰り百姓に精を出していますが、協働のまちづくりが急務となっています。高齢化で一人で生活されている方、高齢の方の腰を曲げての田畑での姿に胸を打たれます。若者や子ども達の移住ができる魅力あるまちづくりを今後も頑張ってください。(61歳・男性)

暑かった夏が終わり、ゆきあいの空に実の便りが聞かれます。まったりとした田舎のすばらしさが目や口に感じられます。神石再発見の季節であります。(56歳・女性)

議員さんの個人新聞を興味を持って読んでいます。(77歳・女性)

広報で介護疲れを癒されしどんぐりの中 あの人がいって(87歳・女性)

問 町立病院の存続を強く求める

答 町づくりの大きな柱だ



片山元八郎 議員

Q 平成21年4月、公設民営化により神石高原町立病院が発足。平成25年3月末には、陽正会との契約も4年目が経過。残すところ1年余り。民営化4年間の評価される点と課題を明らかにし、公設民営化2期目以降の充実・存続に備えるべきと考える。
A 町長 私、県立時代に比べ職員などの対応が良くなったと思うがどうか。



町立病院を守る会による清掃活動

Q 入院患者の期間が上限の3か月を過ぎると県立時代は退院を厳しく迫られた。町立になり柔軟に対応されていると思うがどうか。
A 町長 自宅に帰ることが困難な社会的入院患者の受け入れも対応しており、評価できる。

Q 最大の課題は「医師確保」。県立時代は、整形外科医・外科医の常勤がおられた。老人が多いわが町は、常勤の整形外科医が必須。また、透析患者への対応もあり、常勤の外科医も必要と思うが、どうか。
A 町長 整形外科医のニーズは大変高いと認識しており医師確保について、各方面へ引き続き働きかけていく。

Q 陽正会は「医師確保」に向け、努力はされているようだが、成果が見えない。もっと汗をかきべきでは。
A 町長 そのとおりだ。指定管理者として極めて残念だ。

Q 病院事業会計は、とてもわかりにくい。赤字か黒字かをトータルで示せ。
A 町長 平成21年度：政策医療交付金7583万円を投入し、1719万円の黒字。平成22年度：6659万円を投入し、1613万円の黒字。平成23年度：9064万を投入し、940万円の黒字。

Q 町民に対し「おらが町の病院」を守る行動の啓発をどうしているか。
A 町長 町立病院を身近に感じてもらうよう、病院職員による「出前講座」や地域イベントにおける「健康コーナー」などを行っている。

Q 公設民営化2期目以降をどう考えているか。
A 町長 存続は、まちづくりの大きな柱。懸案事項の課題を整理し、今年度から次年度前期に向けて、鋭意検討しながら、必要に応じ委員会も設置したい。